

ドランジェ『ハンザ 12-17世紀』合評会——アイスランド中世史からのコメント（松本涼）

1. 地域社会の変容との関係

ハンザのネットワークがローカルな社会にどう関わっているのか、社会をどう変えたのか？
→ ドイツ史をこえる射程

pp. 256-57) ベルゲンのタラ取引

- 14世紀 ベルゲン—ポストン—リューベックの三角貿易
- 15世紀 ノルウェー産対アイスランド産のタラの競争
ハンブルクとブレーメンの船が、イングランド船に続いて直接アイスランドに向かうように

- 干し魚輸出の開始（14世紀）がアイスランド社会に与えたインパクト

14世紀「ノルウェー人の世紀」→15世紀「イングランド人の世紀」→16世紀「ドイツ人の世紀」

- 漁業の産業化
- 生活物資の増加：繊維製品、穀物、ビール、ワイン
- 新技術・文化：印刷術、火器、プロテスタント信仰（1533年にルター派教会の建設）
* 第7章 ハンザの文明, ロフォーテン諸島の事例：成川論文（2015）
- 治安の悪化 イングランド人とデンマーク人、16世紀にはハンブルク商人との抗争
1467年 イングランド人によるアイスランド総督の殺害

pp. 319-20) ハンザ・デンマーク王とイングランドとの確執

2. 海事史におけるジェンダー

p. 253) スコーネのニシン取引におけるヴェズ ved / フィッテ vitte

魚の下処理、塩漬けを女性が担当（デンマーク人、ドイツ人）⇔ 男性集団である商館との違い

p. 403) 最近二五年間のハンザ史学：ケルンの女性の活動

ハンザの商業におけるジェンダー分業は？ 商品を生産・販売する過程に女性の参加？

- 「海に生きる女たち」『ヨーロッパの北の海』：19世紀の海におけるジェンダー分業
 - 北海：男性＝海上／女性＝餌付け・水産加工などの沿岸での季節労働
 - バルト海：女性の沿海漁業、船での移動は珍しくない ⇔ 小さなジェンダー分業：操帆/漕船など
 - 19世紀後半～ 漁業・農業の近代化、中産階級の理想 → 女性＝家庭/男性＝扶養者
- アイスランドの場合
 - 中世：海外交易や遠洋航海に携わる女性は稀（松本 2015）
 - 漁業に従事する女性（Margaret Willson. 2016. *Seawomen of Iceland: Survival on the Edge.*）
 - 近世まで、女性が漁のために海に出ることは勇敢な行為とみなされた
 - 船長 Halldóra Ólafsdóttir：18世紀半ばの西部地域で女性だけの漁船を組織
 - 17-18世紀の人口減少、高い海難率 → 未亡人が海に出る必要
 - 1900年前後、近代化が進む中で女性漁師に対するイメージの変化
 - 「家庭の天使」像 ⇔ 海に出る女性＝unfeminine
 - 女性の漁師に対する偏見：船上の同僚よりも陸の人間から

参考文献

- デヴィッド・カービー, メルヤ・リーサ・ヒンカネン. 2011 『ヨーロッパの北の海——北海・バルト海の歴史』 玉木俊明, 牧野正憲, 谷澤毅, 根本聡, 柏倉知秀訳. 刀水書房.
- 成川岳大. 2015 「中世ノルウェーの商業と経済——北方のタラ、ハンザ商館、そして黒死病」 斯波照雄・玉木俊明編『北海・バルト海の商業世界』 悠書館, 183–216頁.
- 松本涼. 2010 「中世アイスランドと北大西洋の流通」 山田雅彦編『伝統ヨーロッパとその周辺の市場の歴史（市場と流通の社会史 I）』 清文堂出版, 2010年, 69–93頁.
- 松本涼. 2015 「中世アイスランドの商業——羊毛布と女性」 斯波照雄・玉木俊明編『北海・バルト海の商業世界』 悠書館, 149–82頁.
- Willson, Margaret. 2016. *Seawomen of Iceland: Survival on the Edge*. Seattle: Univ of Washington Pr.